

東日本区理事通信



国際会長主題
スローガン
アジア太平洋地域会長主題
スローガン
東日本区理事主題
スローガン
強調月間 EMC/MC

「価値観、エクステンション、リーダーシップ」
「命の川を信じよう」
「変化をもたらそう」
「奮い立たせよう」
「変化をたのしもう！」
「助け合い、分かち合い」
2020.12.1 発行 第6号



理事メッセージ

東日本区理事 板村 哲也（東京武蔵野多摩）

11月は好天が続きました。コロナで気持ちがふさぎ勝ちですが青空と爽やかな風は一服の清涼剤となりました。しかし以前から予測されていたように、気候の寒冷化・乾燥化や人の動きに伴い新型コロナウイルスの感染が急拡大し始めました。個人の努力の限界は越えたとは言え、引き続き感染防止に注意を怠らないように致しましょう。

11月14日に甲府21クラブの創立30周年記念例会が開催され、その中で2名の入会式が行われました。また豪州アデレードクラブとのIBC締結式がZoomで行われました。ZoomによるIBC締結はワイズメンズクラブ国際協会として初めてのケースでしたが、周到な準備で極めて順調に執り行われました。なおこのIBC締結は国際協会として1004番目とのことです。（関連記事4頁）

11月27日には石巻広域クラブでハイブリッド方式による入会式・転入式が行われ、それぞれ4名、1名が入会されました。

第2回役員会(11月7日)で東日本区の法人化準備委員会の設置が承認され、宮内友弥委員長を筆頭に24名の委員の皆さまが任命されました。法人化の動きは日本区時代の1992年から始まり、紆余曲折がありましたが、最近2年間の集中的な検討で具体的な取り進め案を得るに至りました。これから約半年間法人化準備委員会で最終的な作業を行い年度末に一般社団法人として登録を行うことを目指します。これからの動きにつきましてはいろいろな方法で皆さまにお伝えしていきますので、よろしくご理解下さいませようお願い致します。（関連記事3頁）

新型コロナウイルスの感染拡大の中で私たちの生活や命を守るために働いてくださっている方が大勢おられます。また苦しんでおられる方も大勢おられます。団体として、また個人として分かち合えること、助けあえることを考え実行していきましょう。

強調月間「EMC/MC」



「コロナ禍での会員増強、厳しい現実」

会員増強事業主任 伊藤 幾夫（東京多摩みなみクラブ）

EMC/MC とは、Extension(新クラブ設立推進)、Membership(会員増強)、Conservation(維持啓発)の中で、今月は特に M と C を強調しています。

昨年度からスタートした東日本区 Change! 2022 プロジェクトは、2022 年までに会員を 1,246 名（今年 7 月 1 日時点では 830 名でした）にしようという目標を掲げて、東日本区すべてのクラブが目標達成に向けて励んでいるところです。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大が現在にも及び、今後も収束のめどが立ちません。その影響がほとんどのクラブに現われているようです。10 月中旬までに、各部の会員増強事業主査さんまたはエクステンション委員長さんをお願いをして、クラブ会長さんに「コロナ禍の中でのワイズ活動」についてヒアリングをしていただきました。その集約を 10/21(水)の第 2 回拡大 EMC 事業委員会で報告していただきました。その中で出されたのは「会員増強の厳しい現実」でした。「会員増強どころか、いかにしてドロップ会員を出さないかで必死だ」という声も多数聞かれました。コロナ禍という、私たちが初めて経験する苦境にどう立ち向かって行ったらよいか私たちは試されています。ワイズの魅力のひとつである「信頼できる仲間との交友」が保てない現実があります。いままで私たちは、その「交友」を通して「仲間」を増やしてきました。Zoom などのオンラインでの交流は、コロナをきっかけに、新たに学んだツールですばらしいものだと思います。しかし、「リアルな交友にまさるものはない」とみなさんが思われているのではないのでしょうか。このような厳しい現実の中でも、着実に会員を増強しているクラブがあります。甲府 21 クラブは 5 名、石巻広域クラブは 4 名の新入会員を迎えました。どのようにして増強しているのか、12/2(水)第 3 回拡大 EMC 事業委員会で聞きすることになっています。今度、そのヒントをみなさんにご報告したいと思います。まもなくクリスマスシーズンを迎えます。アニバーサリープレゼント（周年記念クラブに会員候補を紹介）の推進もよろしく願います。年が明けると後期半年報の提出があります。各クラブ会長は 1/10(日)までに部長宛、また部長は 1/15(金)までに東日本区事務所および会員増強事業主任伊藤幾夫宛お送りください。

★第 2 回役員会報告

東日本区書記 小山 久恵（東京サンライズ）

2020 年 11 月 7 日（土）19 時より Zoom による役員会が開かれました。出席者 33 名、そのうち役員 16 名中 16 名で、下記の 8 議案が審議され、すべてが全員一致で承認されました。

- ① 第 1 回役員会議事録承認
- ② 臨時役員会議事録承認
- ③ 2021-2022 年度東日本区役員指名
- ④ Change! 2022 推進委員会規則施行細則の改訂案
- ⑤ Change! 2022 推進委員会 2020-2021 年度予算案の承認
- ⑥ 新クラブ設立支援金規則の改正案
- ⑦ 2019-2020 年度入会の会員に対する東日本区大会登録費補助
- ⑧ 東日本区法人化準備委員会の設置および東日本区法人化準備委員会規則の制定

その後、理事、4 事業主任、7 部長と各委員会委員長から活動報告、担当主事の YMCA 報告、監事講評がありました

次回の役員会は 4 月 10、11 日開催予定です。

★法人化に向けて

東日本区法人化準備委員会委員長 宮内 友弥

第2回役員会にて「東日本区法人化準備委員会の設置」の議案提案が承認され、7部部長、4事業主任を含む24委員で構成される「法人化準備委員会」が理事直属の特別委員会として発足し、11月20日Zoomによる第1回委員会が開催されました。

本件は、(1)2012-2013年度「健全化委員会」の答申に基づき理事より文献・組織検討委員会に諮問があり、2013年6月『NPO法人、一般社団法人の両法人化について検討したが、今後の社会の動向、東日本区の状況の変化による再検討が必要となった時に再度審議する。』との答申を行った。(2)2018-2019年度理事宮内は、今後取り組むべき最優先課題「組織の在り方再検討」の一環として「法人化検討の推進」に取り組むことを表明。(3)この方針に従い2019年1月文献・組織検討委員会で法人化の再検討について「小委員会」を設置。(4)以降2年間にわたり17回の小委員会を開催、時間をかけて検討し、今般板村理事への答申に至ったと言う経緯があります。

準備委員会では、文献組織検討委員会小委員会で作成した検討資料をタタキ台として議論を尽くし、総意を得て最終案を作り上げることになります。今後準備委員会は、各月1回のペースで開催し、3月に開催予定の第5回委員会にて理事に対する最終答申案を決定の見込みです。法人化の時期については、板村年度末の代議員会での最終決定を目指しています。

法人化により対外的認知度の向上や社会的信用度が増すことから、喫緊の課題である会員増強に結びつくものと期待されますが、一方会員の皆様が心配されるのは、法人化によって部、クラブ、それぞれの会員の役割や負担がどう変わるのかということかと思われれます。結論から申し上げますと、変わらないということです。まず国際協会の法人化への対応がどうなっているかを見ますと、(1)1927年(ワイズ設立後5-6年)には、既に法人組織としての手続きを完了。(2)現在の国際協会本部は、スイスでNPO法人の資格を取得し税金面のメリットを享受しているが、実際の運営はワイズの国際憲法に依拠して運営しています。(3)我々が行おうとしている東日本区の法人化も普通の運営は区定款に沿って行います。この現定款が運営上の規則となるということです。但し法律上の権利義務を行使する場合は、一般社団法人の定款に依拠します。(4)従い部、クラブ運営には、影響はありません。(5)クラブ(団体)が会員となる。会員の立ち位置は変わらない。会員、クラブ、部の関係性は変わりません。(現在の区の定款に基づいたもの)。(6)クラブの活動を制限するものではない、クラブの活動の自主性を損ねるものでもありません。

第2回委員会以降の検討状況については引き続きご報告しますので、ご理解の程よろしくお願い致します。

★設立30周年記念例会を終えて

甲府21クラブ会長 興水 順雄

甲府21クラブの創立30周年記念例会を11月14日(土)に開催しました。1年前から佐藤重良実行委員長のもと準備を進め、記念誌、DVDの制作、会場手配、プログラムの内容など検討を重ねてきました。コロナウイルスの感染拡大があり、開催も危ぶまれる状況ではありましたが、人数制限・検温などコロナ対策を徹底した上で開催することにしました。受付ではマスク着用を確認の上検温し、懇親会の際は「会話なしの食事」、マスクを着けてからの会話をお願いしました。当日は天気が良く、たくさんの外気も取り入れることができました。

そうした中で、甲府市長、ワイズメン国際協会、東日本区、あずさ部、DBCの草津クラブなど来賓・ゲストを迎えての記念例会となりました。30年間皆勤賞の駒田勝彦メンを表彰、記念の盾と奥様に花束を贈呈しました。本人は、「30年間健康という訳ではなく、たまたま例会の時は元気だったという幸運もあった」と挨拶されていましたが、なかなかできることではありません。

記念講演会は、甲府21クラブの原点とも云える活動に関わる「ある感染症に勝利した甲府盆地の人々」をテーマに当クラブチャーターメンバー葉袋勝メンに語っていただきました。コロナも感染症であり、興味深い講演となりました。

記念すべき例会で、市川将来さん、小俣寛さんの入会式も行うことができました。甲府21クラブの会員は43名となりました。8名のチャーターメンバーを中心に、会員が増えることにより人材の幅が広がり活動が活発になってきました。

アデレードクラブとのIBC締結式は、IBC国際事業主任・利根川恵子さん、アジア太平洋地域IBC事業主任・田中博之さん、東日本区理事・板村哲也さん、あずさ部長・御園生好子さん、あずさ部国際交流事業主査・服部節子さんに立ち会っていただき、Zoomでアデレードクラブと行いました。昨年仙台で開催されたアジア太平洋地域大会で、我クラブの米長晴信メンが当時の国際会長ジェニファージョーンズさんとお会いしたことがきっかけとなりました。四季のある気候、果物・ワインの産地、プロサッカーチームの存在など共通するところも多く、今後の交流が楽しみです。創立30周年を機に、新しい拠点で完成した山梨YMCAを今まで以上に支援し、地域奉仕などワイズの活動に励んでいきたいと思っております。記念例会は入会式やIBC締結式も行われ、忘れられないものとなりました。多くのワイズとのつながり、地域の皆さんとのつながりの中で創立30周年を迎えることができたことに感謝します。

★甲府 21 クラブ・アデレードクラブの IBC 締結

国際・交流事業主任 米長 晴信 (甲府 21)

2020 年 11 月 14 日、甲府 21 クラブが創設 30 周年記念例会において、オーストラリア区のアデレードクラブとの IBC 契約を結んだ事を報告いたします。

【経緯】昨年 7 月に仙台で開催されたアジア太平洋地域大会にてエクスカージョンでオーストラリア区の皆様とご一緒する機会があり、その後その時のお礼などのやり取りをメールで交わす中で IBC 締結を結ぶという議題にまで発展。代表してやりとりを行ったのは直前国際会長のジェニファージョーンズ氏と私 (クラブ次期会長)。その後 1 年余りのメールのやり取りで各クラブメンバーへの周知やいつ、どのような形で締結式を行うか相談し、甲府 21 の 30 周年記念例会の席で zoom によるリモート形式で行うことを決定。

【準備】今回の IBC 締結に向けた準備が非常にスムーズにいった理由の一つは、IBC 担当の利根川恵子国際事業主任、田中博之アジア・太平洋地域事業主任が共に東日本区に所属されているということです。相談、打合せが時差や言語の障壁無く行う事ができ、その上実際に式典にご来場いただくことができました。この場をお借りいたしまして今回の締結に向けて多大なるサポートをいただいた両事業主任にお礼を申し上げます。この極めて恵まれた環境ゆえ、今年度は東日本区として IBC 締結のチャンスであることを実感しました。

時間的な制限があり、効率よく進行をするために全て英語で式典を行いました。進行役 (私) の台詞、両会長のあいさつ、立会人の祝辞など全ての台本を事前に提出していただき、日本語訳して会場にて資料配布しました。英語の映画を字幕で観るといった感覚です。また、式典そのものの中では使用しませんでした。事前に双方のクラブがパワーポイント形式で自分のクラブの紹介資料を作成して交換し、相手のクラブや地域について事前に学習しました。これにより今までは見えなかった両クラブの共通点がいくつも見付き、より一層 IBC 締結への期待が膨らみました。

【コロナ社会ならではの形式】締結式は zoom によるリモート形式で行われました。つなげた会場は 3 カ所。甲府 (甲府 21 の 30 周年記念例会会場、カメラは 3 台)、アデレードのジョーンズ宅 (メンバー 10 人程度参加)、オーストラリア区代表立会人のムレイ・スティーブンス氏宅 (自宅単独)。スティーブンス氏はアデレードから 700km 離れたバララットという街で 3 ヶ月ロックダウンされているとの事でしたが、zoom 形式で行うため式典への参加が可能となりました。

締結書は、本来のようにその場で 3 人 (両クラブ会長と国際事業主任) がサインするということができないため、アデレードの会長のサインした締結書を事前にメールで送っていただき、甲府の会場にて甲府 21 の興水会長、利根川国際事業主任がサインをして完成しました。

バナーと記念品の交換はできないため、それぞれ自分の用意したものを画面にて披露。両クラブとも近郊がワインの産地なのでそれぞれ自慢のワインを記念品にしました。

【総括】利根川国際事業主任によると今年度に IBC 締結をしたのは今回で 5 組目ですが、実際に締結式の会場に利根川主任が足を運べたのは初めてで、とてもよかったとコメントをいただきました。私も東日本区の事業主任としてたまたま自分の所属するクラブの締結式を経験する事ができ、今後の区内の IBC 締結をより一層サポートし易くなりました。

課題としましては、zoom 形式を活かして、より多くの方に傍聴していただく形で開催する方法を確立して行きたいと思えます。当事者でない方の顔がたくさん画面上にあると式典として成立しませんが、zoom 画面上には式典のものだけが映り、傍聴者は画面に映らないようにする方法もあり、それをうまく活用して行きたいと思えます。

今回、YMCA 同盟の光永尚生東西日本区担当主事に zoom のアカウント、zoom 会議用のカメラ、スピーカ・マイクを提供していただき、会場にて作業の全面サポートをいただきました。光永主事のお力なしではこの式典を行う事ができませんでした。改めて御礼申し上げます。事業主任として私が掲げた今年度の IBC 締結目標は 7 組です。コロナ社会においてむしろ IBC を探す、あるいは懇親を深める事がし易い環境であるという面を最大限活かし、目標を達成できるよう皆様のご協力をお願いいたします。



★YMCA 報告「私たちの地球と宇宙船レジリエンス号」

日本 YMCA 同盟担当主事 光永 尚生 (三島)
去る、11月16日に NASA ケネディ宇宙センターから、3回目の宇宙飛行となる野口聡一さんら、多様性を持つ4人のクルーが宇宙へと飛び立ちました。イーロンマスクが率いるスペース X 社のクルードラゴンという宇宙船です。ニュースによると、4人の宇宙飛行士たちは、話し合い、宇宙船の名前を、「レジリエンス号」と名付けたそうです。

ニュースを見ていた私は、おもわず「はっ!」としました。私たちの YMCA では、いち早く春の段階から、「レジリエンス」を標榜し、「レジリエント YMCA の活動」を世界の仲間と分かち合ってきました。もしかしたら、そのことを、アメリカにいた宇宙飛行士たちは知っていて、「レジリエンス=回復力」をこれからの社会への希望の言葉として捉えたのではないかと感じました。感じたのは、私だけかもしれませんが嬉しくもありました。

現在までの、世界と日本の YMCA の状況はとても厳しい中にあります。その中にあっても、私たちの YMCA につらなる仲間たちは、「レジリエンス」を希望の灯として、聖書の言葉にあるように、燭台の上に掲げ、世を照らす光となるように輝き続けたいと願っているようです。私たちの社会は、New Normal な社会へと転換していくことが予想されますが、私たちは、祈りの中で、変えるべきものと変えてはいけないものを見極めてく、「知恵」をこれまでも、そしてこれからも持ちつづけていきたいと思います。

YMCA とワイズメンズクラブは、賢者として、経験ではなく、歴史に学んできました。100年の歴史を刻む2つの団体が、パートナーシップの絆を強め、力強く歩むことこそ、「レジリエンス」な社会への一歩だと確信しています。お互いに応援し、お互いが応援される素敵な関係性に感謝です。これからも、皆様には、関係性のマネジメントに関わっていただければ幸いです。

★次期の次次期理事及び次期監事推薦のお願い

2021-2022年度次次期理事および監事候補者の推薦をお願いします。

2021-2022年度の次次期理事候補者(理事任期2023年7月~2024年6月)および監事候補者(監事任期2021年7月~2022年6月)の推薦をお願いいたします。推薦されるクラブ会長は、推薦書をメール、ファックスまたは郵送で、山田敏明指名委員会委員長(直前理事・十勝クラブ)にお送りください。

★次次期日本区大会ホストクラブ募集

第26回東日本区大会(2023年6月予定、佐藤理事年度)のホストクラブを募集いたします。クラブの活性化、会員増強、あるいは、周年記念事業の一環として積極的にご応募ください。立候補を希望されるクラブは用紙を東日本区事務所にご請求ください。

★後期区費及び各種献金

後期区費の請求書と各種献金のお知らせをクラブ会長あてに送付させていただきます。ご準備をよろしくお願いいたします。

★BF 代表来日無期限延期

11月に予定していたペルーからのBF代表の来日がコロナのため無期限延期となりました。

★入会者(2020年11月1日~30日)(カッコ内は推薦者)

石巻広域	姉齒一紀さん (石川光晴さん)
	千葉直美さん (清水弘一さん)
	福島和州太郎さん (青木満里恵さん)
	南 奈央子さん (石川光晴さん)
	川上直哉さん (仙台青葉城より転入)
甲府 21	市川将来さん (宮岡宏美さん)
	小俣 寛さん (宮岡宏美さん)

★募金・献金

ありがとうございました。

・JEF 献金

横浜クラブ

90,000 円

★Zoomにも使えるスピーカーフォン

東日本区にてスピーカーフォンを購入しました。1台で5名程度の会議で使用できます。2台を接続すると10名程度でも使用可能です。

(東日本区では2台所持しています)
360°全方向集音、接続方法はUSB/Bluetooth/AUX。Skype/Zoom/Facetime 通話アプリ等で使用可能です。貸出しをご希望の会合がございましたら、東日本区事務所までお問い合わせください。



★12月、1月の予定

12月 2日 (水) 19:00～	Zoom	第3回拡大 EMC 事業委員会
4日 (金) 18:00～	Zoom	第4回常任役員会
5日 (土) 15:00～18:00	Zoom	アジア太平洋地域会議
6日 (日) 19:00～	Zoom	第6回 Change! 2022 推進委員会
7日 (月) 14:00～16:00	YMCA 同盟 (四谷)	ワイズメネット委員会
10日 (木) 18:00～20:00	Zoom	パートナーシップ委員会
11日 (金) 18:30～	Zoom	第3回 LT 委員会
12日 (土)		横浜クラブ 90周年 (延期)
14日 (月) 19:00～	Zoom	第4回文献・組織検討委員会
18日 (金) 19:00～	Zoom	第2回法人化準備委員会
1月 15日 (金) 19:00～	Zoom	第3回法人化準備委員会

★第24回東日本区大会のご案内

ワイズメンズクラブ国際協会 第24回東日本区大会



11th～13th Jun 2021

”ようこそ東日本区大会へ”

Change for the future! (未来へつなげる変化を)

記念講演の講師決定！！



石丸謙二郎 (俳優)

1953年生まれ、大分県出身。

つかこうへい舞台『いつも心に太陽を』(1978年)でデビュー。

1987年からは、テレビ朝日系『世界の車窓から』のナレーションで、人気を博す。

2018年より、NHKラジオ「石丸謙二郎の山カフェ」のパーソナリティー。

落ち着いたトーンの声質と渋みのある演技で、テレビ・舞台・映画と幅広く活動。

プライベートでは多趣味なアウトドア派。ウインドサーフィン、登山、フリークライミング・ピアノ・釣りを趣味としている。

著書「山は登ってみなけりや分からない」(敬文舎)、

「山へようこそ一山小屋に爪楊枝はない」(中央公論新社)。

■石丸謙二郎ブログ <https://ishimaruk.exblog.jp/>

■青年座映画放送 <https://www.seinenza-eihou.com/>

■石丸謙二郎公式サイト <https://www.ishi-ken.jp/>

● 皆さま、甲府湯村温泉郷でお待ちいたしております ●